

三重県 尾鷲市

44. 特定非営利活動法人 てんまうら ひやくにんかい 天満浦百人会

～ 合言葉は天満から尾鷲を元気にしょうらい! ～

キーワード

「食」の提供・活用

子ども(教育・体験)

女性の活躍



月いち天満レストランで提供されるおわせ伝統料理



おわせおひなさままつり(天満荘)



新作スイーツ クロフ風パンpinkケーキ

活動のきっかけ

- ◆平成12年に「天満をにぎやかなまちにしょうらい!」を合言葉に、おもてなしを中心に活動を開始
- ◆築90年余りの古民家を改修し、平成22年より「カフェ天満荘」として開店

取組概要

- ◆おわせ食の伝承と女性・高齢者の活躍の場づくりのため、カフェ天満荘での「月いち天満レストラン」(※)を開催
- ◆甘夏みかんの栽培により生まれたマーマレードの製造・販売
- ◆地元小学生など若者を対象とした郷土食に関する出前講座の開催

活動の効果

- ◇地域が高齢化する中、「カフェ天満荘」への年間集客数が約3千人(H27)を達成
- ◇「カフェ天満荘」を拠点として、高齢者の知恵と若者の行動力が連携し地域の活性化に寄与
- ◇食の体験などの各種イベントでは世代間の交流も活発に行われ、地域住民を巻き込んで大きく発展し、まちづくりの核となる活動に

(※)「月いち天満レストラン」は平成29年3月をもって閉店となります。

特定非営利活動法人 天満浦百人会
尾鷲市大字天満浦1番地の6
TEL:0597-22-7880 FAX:0597-22-7880



45. とば 鳥羽マルシェ有限責任事業組合

～ きれい輝く鳥羽で「食」のしあわせづくり ～

キーワード

「食」の提供・活用

6次産業化

地産地消



健康に配慮し、旬の食材で調理したレストランメニュー



マルシェでの新鮮な農水産物販売



6次産業化で取り組むジャムづくり

活動のきっかけ

- ◆ 農水産物の価格低迷や後継者不足等の課題解決に向け、地元の農協と漁協が手を携え平成26年に新組織を設立
- ◆ 年間約440万人が来訪する観光地で、付加価値の高い農水産物づくりと地域で受け継がれる食文化の魅力を発信

取組概要

- ◆ 農漁家の所得向上を目指した農水産物の直売事業、地域で継承されてきた「食の知恵」を提案するレストラン・惣菜事業を実施
- ◆ 地元農水産物を活用したジャムや釜ゆで加工品など6次産業化の取り組みにより生産者を支援

活動の効果

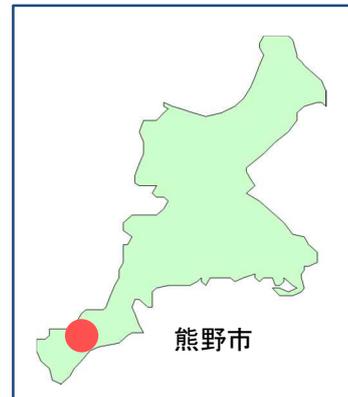
- ◇ 自家消費が中心だった地域の生産者から農水産物等を買取り、マルシェで販売することにより生産者の所得向上に貢献
- ◇ 直売部門の売上げが、約30百万円から約81百万円（H26→H27）へ約3倍に増加
- ◇ サメやアラメといった食材など地域独特の食文化を発信することで、地域の「食」の付加価値が向上
- ◇ 6次産業化の推進により鳥羽マルシェで販売するアイテム数が、50から158（H26→H27）に増加

鳥羽マルシェ有限責任事業組合

鳥羽市鳥羽1丁目2383-42

TEL:0599-21-1080 FAX:0599-21-1081

三重県 熊野市



46. 一般財団法人 熊野市ふるさと振興公社

～ 地域資源を活用したグリーンツーリズム ～

キーワード

「食」の提供・活用

その他(都市との交流)



相模女子大学生の地元農家との新姫収穫交流



丸山千枚田での田植え交流



女子大学生が提案したメニュー
「かつキャベ元気そば～熊野育ち新姫添え～」

活動のきっかけ

- ◆平成9年に熊野市新鹿町で発見された新種の香酸柑橘「新姫(にいひめ)」の産地化着手
- ◆平成20年度から都市と農村の交流の一環として、相模女子大学生の地域協働活動の受入れを開始

取組概要

- ◆新姫の産地化を進めるため、荒廃農地約3haを整備し約3,300本を定植
- ◆相模女子大学生の地域協働活動への支援及び都市部での熊野市のPR活動

活動の効果

- ◇大学生が地元農家の栽培する新姫の収穫や選別・袋詰作業を手伝うことで、農家の労働力確保に貢献
- ◇平成18年から平成25年の8年間で、約3haの荒廃農地が解消
- ◇相模女子大学と連携した都市部でのPR活動、大学生による特産品を使った新たな商品提案など、熊野市の認知度向上にも貢献
- ◇大学生との交流を通じ、外部目線による地域の魅力を地域住民も再確認

一般財団法人 熊野市ふるさと振興公社
熊野市紀和町板屋78
TEL:0597-97-0640 FAX:0597-97-0641

三重県 熊野市

まるやませんまいだ 47. 丸山千枚田保存会

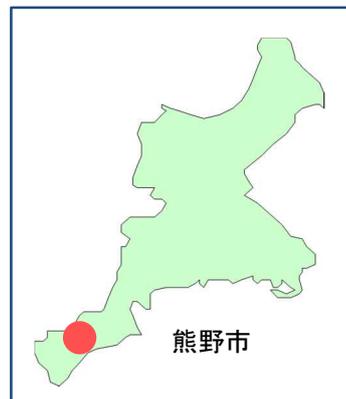
～ 皆で残そう！10年、100年、千枚田 ～

キーワード

自然・景観

伝統・継承

その他(オーナー制度、農業体験を通じた都市との交流)



熊野市



1340枚まで復元された「丸山千枚田」



オーナーとの交流「稲刈りの集い」



伝統的農耕行事「虫おくり」を復活

活動のきっかけ

- ◆かつて 2,240枚あった棚田が平成初期には530枚まで減少
- ◆先祖代々の丸山千枚田を失いたくない！復元し、後世に残したい！との地域住民の想いと、復元して地域振興・活性化につなげようという行政の想いから平成25年に活動開始

取組概要

- ◆棚田の復元と手作業での農作業、石垣補修による景観保全活動
- ◆棚田オーナー制度の運営、農業体験を通じた都市住民との交流
- ◆昭和28年まで行われていた火と音で害虫を追い払う伝統的農耕行事「虫おくり」の復活

活動の効果

- ◇棚田のある日本の原風景を取り戻し、地域の宝として後世へ継承
- ◇棚田オーナー制度や農業体験により、地元と都市住民が一体となった保全活動が展開され、活気のある農村が復活
- ◇夏の風物詩の「虫おくり行列」など四季折々の姿を楽しむことができ、棚田を訪れる観光客も約7千人から約27千人（H23→H27）へ約4倍に増加

丸山千枚田保存会(熊野市役所)

熊野市紀和町板屋78

TEL:0597-97-1113 FAX:0597-97-1003

49. ^{たびか} 田光資源と環境を守る会

～ 清流と、光かがやく田園と未来ある ふるさと田光 ～

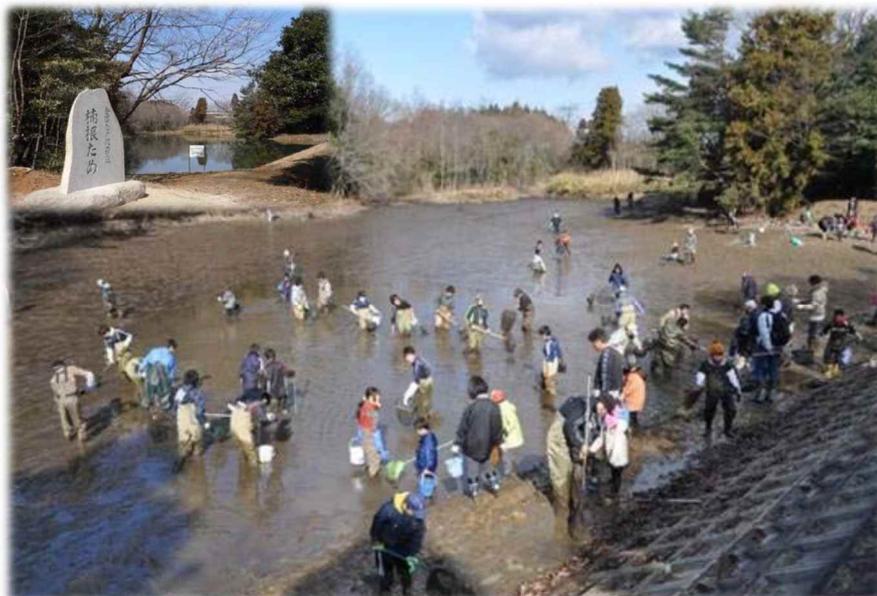
キーワード

自然・景観

子ども(教育・体験)

地産地消

菰野町



ため池百選に選ばれた「楠根ため」と池干しの様子



シテコブシ群生地



タナゴ 生き物観察会

活動のきっかけ

- ◆平成3年より転作田を活用したコスモス畑の共同維持活動を開始
- ◆平成17年に「田光のシテコブシ及び湿地植物群落」が国の天然記念物に指定されたことから、地域の環境保全の機運が上昇

取組概要

- ◆毎年約3haのコスモス畑で地域交流イベントを開催
- ◆田光の地域資源を後世に伝えるため、平成19年に「田光資源と環境を守る会」を設立し活動開始
- ◆地元小学校と連携し、子ども農業体験・伝統文化の継承を実施

活動の効果

- ◇毎年10月中旬に開催される「コスモス地域交流会」での参加者数が、約1,800人から約2,700人(H23→H27)へ増加
- ◇ため池の池干しにより外来魚が駆除され、希少生物であるアブラボテ(タナゴの一種)を保全
- ◇地元小学校が総合学習の一環で行う生物・生態系の観察会や農業体験を通じ、地域の絆が深まり、次代を担う地域の後継者育成と伝統文化の継承に寄与

田光資源と環境を守る会(菰野町役場)
三重郡菰野町大字潤田1250
TEL:059-391-1129 FAX:059-391-1193



50. ^{たちばい}立梅用水土地改良区

Power of the TACHIBAI ~ 次の200年へ ~

キーワード

子ども(教育・体験)

6次産業化

その他(再生可能エネルギー(小水力発電、太陽光発電)を活用した町づくり)



コミュニティスクール「米・大豆づくり」



コミュニティスクール「食農教育」



立梅用水を利用した小水力発電

活動のきっかけ

- ◆約200年前に完成した「立梅用水(農業用水路)」を活用し、農業農村を中心とした地域社会の「絆」再構築に取り組む
- ◆平成5年より地域住民と土地改良区との協働による「あじさいいっぱい運動」を開始

取組概要

- ◆地域住民が主体となり地元小学生を対象にコミュニティスクール(CS事業)を実施し、農業生産を通じた食農教育と農業用水の大切さなど地域農業をPR
- ◆再生可能エネルギー(小水力・太陽光発電)の普及推進活動

活動の効果

- ◇CS事業や企業連携活動を通じて、外部視点による地域の価値を再認識
- ◇CS事業が社会人向け企業研究プロジェクトメニューとして発展し、新たな地域産業の立上げといった農村創造にも効果
- ◇再生可能エネルギー(小水力・太陽光)の新たな普及方法として電気の地産地消事業を立ち上げ、年間約800人(H27)の視察を受入れ

立梅用水土地改良区

多気郡多気町丹生1620-3

TEL:0598-49-4522 FAX:0598-49-4828